

本年度の 重点目標	確かな学力と逞しく生きる人間力の主体的育成 (「校訓」知・仁・勇の推進—文武両道—)			
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価	評価結果と課題
中高一貫教育 (管理職)	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫とする 6 年間で意識した中学校 1 年生の教育課程を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫校として、高校と連携した活動の在り方について検討する。 ・めざす生徒像を意識して、中学校 1 年生で学ぶべきことを生徒の成長に合わせた方法で全職員協力の元に指導していく。 	A	めざす生徒像を意識して、目の前にいる生徒に合った適切な方法で授業を進めることができた。中3及び高3の卒業時の姿をイメージして、そのゴールに向けて教育課程を整えていく必要がある。
職員の健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が職務に集中して取り組めるように無理のない組織づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤怠勤務を管理して、教職員にとって無理のない働き方になるように調整していく。 	B	時間外勤務を把握することで、勤務の偏りができるだけ少なくなるように仕事を振り分けることができた。中高ともに授業を受け持っている職員への負担が大きいため、次年度は可能な限り配慮をしていきたい。
総務関連の行事のあり方の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・R8年度に向けて、行事等の見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・附属中学校・高校普通科ともに修学旅行の検討を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行委員会の再編を行い、丁寧に時間をかけて検討することができた。
P T A 組織の整備 (総務)	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A 組織の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫校として、高校と連携した活動の在り方について検討する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校からは3名が地区委員として加わり、高校と連携して運営することができた。

<p>教育活動の充実 (教務)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科における取組の情報の共有化 ・探究的な授業の研究・取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教科以外の授業を観察したり、教科横断的な取組をしたりすることで、よりよい教科指導の方策を話し合うきっかけとなるようにする。 ・MYP のプログラムに基づいて、各教科で探究型の授業に取り組み、実践報告を行う。 	<p>B</p> <p>前期はなかなか実施することができなかったが、後期は小グループによる教科横断的な話し合いをしたり、MYP ミーティングの場で共有したりと、よりよい教科指導に向けての話題とすることができた。</p> <p>B</p> <p>教科リーダーを中心に探究型の授業とは何かを相談しながら、日々研究に励んでいる。全体での実践報告の機会が設定できていないので、次年度は実践報告だけではなく、経過報告も実施できるようなシステムを構築したい。</p>
<p>進路指導の実践 (進路)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の生活や人生について考え、自分の個性や能力などを知ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による講演会などを行う。 ・行事など高校生との関わりを通して、3年後の姿を意識させる。 ・みらい PASS ジュニアを行う。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校の講演に混ざっての参加なので、中学生には難しい内容もあるが、振り返りシートなどを見ると、よい経験になっていると思われる。 ・みらい PASS ジュニアを実践したが、その結果を受けての活用方法が見いだせていないため、来年度は、その計画をしっかりと立てたい。
<p>登下校における交通マナーの遵守 (生徒サポート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりある登校による交通ルールとマナーの向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時の交通安全指導をさらに充実させる。 ・ST、講話等で意識を高める指導をさらに充実させる。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全意識の向上をめざした指導を多くの場面で行うことができた。 ・交通事故を防ぐためにも、交通安全教室の開催を年度のなるべく早い時期に行うようにする。
<p>いじめ・問題行動等への把握・対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・問題行動等を早期に発見する。 ・いじめ・問題行動等を解決し防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子をよく観察する。 ・人権(いじめ)アンケートを行う。 ・教育相談を行い情報共有することで組織として対応する。 ・いじめ、問題行動等の解決に向けて、生徒への指導及び支援を保護者と協力しながら行っていく。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有を密に行い、組織的に対応することができた。早期の問題解決を目指し、よりよい対応ができるように今後も改善していく。

国際理解教育	<ul style="list-style-type: none"> ・国際バカロレア候補校としての教育活動実践 ・日常的に国際理解教育の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際バカロレア(MYP)の理念に基づいた探究学習を基にした授業を行い、国際的な視野を養う。 ・毎週の GCP (グローバル・コンピテンス・プログラム) を通じた自己表現、他者理解を英語で行い、地球人としてのアイデンティティを育む。 	A A	<ul style="list-style-type: none"> ・国際バカロレア(MYP)の理念に関して、教員、生徒、保護者に対しての学習会を行うことで、共通理解をもてた。 ・GCP の授業において、協働を通じた自己表現と他者理解の大切さを学べるようになっていく。教科学習に加えてGCPがあることでバランスよく国際理解教育が行えている。
探究学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習の基礎力を養うプログラムから、段階的に課題研究に必要なスキルを学んでいく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、探究活動を進める上で必要なスキルを身につけるためのプログラムを計画的に実施した。 ・津島や周辺地域から講師を招き、地域が抱える諸課題をテーマに探究活動を行い、その成果を校内（中学校）で発表した。さらに、代表グループは中高合同の探究発表会で発表し、学びを広く共有する機会を得た。 ・次年度は、個人探究やグループ探究を継続し、より深い学びを目指す。課題として、国際的な視野を広げるための学びを推進できる連携先の充実が必要であると考えている。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫校として、高校と連携した動きをすることができた。 ・新しい学校として、試行錯誤が必要となる段階なので物事を進めるために時間がかかってしまう。そのため「何のためにやるのか」を答えられないものについて整理していく必要がある。 ・授業改善を繰り返すことで、探究型を意識した授業をよりよいものにすることができた。 ・自分の将来を具体的に考えられるように、年齢に適したやり方でキャリア教育を進めていく必要があると考える。 ・生徒の安全意識を高めるために、交通事故に対するとらえ方を自分事とできるように指導を続けていく必要がある。 ・生徒が1学年しかいなかったため、清掃範囲が広く掃除が行き届かなかった面があったので、改善をしていきたい。 ・生徒の健康状況について、職員間で情報共有をすることができていた。次年度から生徒の人数が増えるので、教育相談連絡会をよりよいかたちで進めて、生徒支援を行っていきたい。 ・生徒が自主性とリーダーシップを発揮できる場を意識してつくっていきたい。 ・よりよい授業となるように校外の図書館と連携をし、授業改善へとつなげることができた。 ・国際バカロレア (IB) MYP の候補校 (Candidate School) としての授業及び GCP の授業を計画 			

	<p>的に進めることで、国際的な視点を含めた生徒の資質を高めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none">・目的に向けての合意形成の仕方についてしっかり学ぶことができた。
--	---